# 平成３１年度

# 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

# （地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）

# 成果報告書

| | | | |
|---|---|---|---|
| 団体名 | | 公益財団法人豊橋文化振興財団 | |
| 施設名 | | 穂の国とよはし芸術劇場 | |
| 助成対象活動名 | | 公演事業 | |
| 内定額(総額) | | 12,830 | （千円） |
| | 公演事業 | 12,830 | （千円） |
| | 人材養成事業 | 0 | （千円） |
| | 普及啓発事業 | 0 | （千円） |

## １．事業概要
## （１）平成３１年度実施事業一覧【公演事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程<br>主な実施会場 | 概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等） | 入場者・参加者数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 「CITY」 | 令和元年 6 月 1-2 日<br>主ホール | 作・演出：藤田貴大<br>出演：柳楽優弥、宮崎氷魚　他 | 目標値<br>実績値 | 1,030 名<br>1,461 名 |
| 2 | ファンファーレ・<br>チォカリーア | 令和元年 7 月 7 日<br>主ホール | 出演：ファンファーレ・チォカリーア | 目標値<br>実績値 | 550 名<br>454 名 |
| 3 | 庭劇団ペニノ<br>「笑顔の砦」 | 令和元年 9 月 27-29 日<br>アートスペース | 作・演出：タニノクロウ<br>出演：緒方晋、FO ペレイラ宏一郎他 | 目標値<br>実績値 | 300 名<br>294 名 |
| 4 | 古楽コンサート<br>レ・タンブル<br>&ハルモニア・レニス | 令和元年 10 月 3 日<br>アートスペース | 出演：レ・タンブル、ハルモニア・レニス | 目標値<br>実績値 | 280 名<br>284 名 |
| 5 | 穂の国とよはし芸術劇場<br>プロデュース「荒れ野」<br>東京公演 | 令和元年 12 月 18-23 日<br>ザ・スズナリ | 作・演出：桑原裕子<br>出演：平田満、増子倭文江　他 | 目標値<br>実績値 | 850 名<br>1,181 名 |
| 6 | 小曽根真<br>ピアノデュオコンサート | 令和 2 年 2 月 11 日<br>主ホール | 出演：小曽根真、児玉桃、大場章裕、西岡まり子 | 目標値<br>実績値 | 540 名<br>469 名 |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |
| | | | | 目標値<br>実績値 | |

## （２）平成３１年度実施事業一覧【人材養成事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程<br>主な実施会場 | 概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等） | 入場者・参加者数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

## （３）平成３１年度実施事業一覧【普及啓発事業】

| 番号 | 事業名 | 主な実施日程<br>主な実施会場 | 概　要<br>（演目、主な出演者、スタッフ等） | 入場者・参加者数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |
| | | | | 目標値 | |
| | | | | 実績値 | |

## ２．自己評価
### （１）妥当性

| 自己評価 |
| --- |
| 社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。 |
| 穂の国とよはし芸術劇場のミッションとして、演劇・舞踊・音楽等の舞台芸術を中心とした芸術と、文化と人との出会いを生み出すことで芸術文化の振興を図り、また、市民の交流と創造活動のための拠点となることで、東三河地域の芸術文化の振興と芸術文化を活用した市民の交流と創造活動の活性化を図る。このことを実現するために、4 つの柱を設けている。<br>（１）個性ある劇場として芸術創造と芸術文化の振興を図る。（２）教育普及活動の推進と市民の芸術文化活動の拠点となる。（３）安全、安心、快適な劇場空間を提供する。（４）文化芸術の進行を通じ地域へ貢献する。<br>（１）に関して「荒れ野」東京公演では、入場者数が当初計画の 138%となり、全国に向けて個性ある劇場としての存在をアピールした。また、公演事業全体としては、入場者数目標 3,550 名が計画の 116%の 4,143 名と 593 名増となり、地域の芸術文化の振興に寄与した。（２）（３）（４）に関して、公演事業のうち 5 事業で関連事業を実施し、舞台芸術の理解をより深める機会を提供した。とくに庭劇団ペニノと古楽コンサートでは、豊橋市内の中学校 2 年生対象の学校鑑賞事業を実施。若年層が優れた舞台芸術に触れる機会を提供した。そして劇場が開館当初より取り組む若手音楽家育成事業やワークショップのファシリテーター養成事業など、幅広い人材育成・普及啓発事業に取り組むことで、市民の芸術文化活動の拠点施設としての役割を果たした。そして舞台芸術及び舞台技術の専門知識と経験を有する劇場スタッフが、施設利用全般について利用者に対し丁寧に対応することを心掛けており、このことで安全、安心、快適な劇場空間を提供している。<br>劇場が連絡通路により直結する豊橋駅は、JR 新幹線、東海道本線、飯田線、名鉄名古屋本線、隣接する駅も含めて多数の鉄道路線が伸び、加えて路面電車・路線バスなどの公共交通機関も集中し、「東三河の交通拠点」として位置づけられている。こうした立地条件を生かし、東三河エリアだけでなく関東圏・関西圏といった広範囲からも一定数の集客実績をあげ、周辺地域への経済波及効果に貢献した。 |
| 助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。 |
| 豊橋市は文化振興指針（平成 28 年度改訂版）の基本方針の一つとして「青少年の芸術文化体験の拡充」を上げており、このことを実施するために当館では豊橋市内の小・中学生対象の学校鑑賞事業を実施している。今年度は 5 作品の鑑賞事業を実施し、庭劇団ペニノ「笑顔の砦」では 165 名、古楽コンサートでは 147 名の中学 2 年生が鑑賞した。<br>また当館では、車椅子で来場した観客がそのまま鑑賞できる車椅子スペースの設定、英語対応のホームページ作成、豊橋市内在住の外国人に向けた英語・ポルトガル語対応の利用者案内の作成、そして視覚や聴覚に障がいを持つ来場者への応対を学ぶ講習を職員自身が受講する機会を設けている。様々な状況の来場者が心地よく来館できる体制づくりを行い、これまで劇場に来館しづらかった方々の来場機会を増やせるよう、継続して取り組む。<br>また、公演事業を対象としたアンケート結果では、来場者の 50%以上が豊橋市外からの来場者という結果が出た（「荒れ野」東京公演を除く）。日本全国並びに海外からの来場者を迎え、また、公演のために出演者やスタッフが豊橋市に滞在することで、豊橋市での移動交通、宿泊、観光等での経済効果に大いに貢献できたと考える。<br>助成を受けたことで、このような様々な取り組みが可能となり、またこれからも継続することで、さらに幅広い意義をもたらす結果につながると感じており、今後も引き続き文化的、社会的、経済的意義を高められる事業に取り組む。 |

## （２）有効性

| 自己評価 |
|---|

目標を達成したか。

目標として、初来場者の増加を目指すとともに、その来場者が繰り返し来場するような魅力ある公演を実施すること、広範囲からの来場者を増やすこと、公演に関連した企画を提供し、アーティストや作品への理解を深め満足度を上げること、そして上演団体自身が今後も当館で上演を期待するべく、劇場としての魅力を高めることを掲げた。
この目標を測定する指標として①来場経験数、居住地調査、関連企画の満足度を測るアンケート調査②上演団体に対する満足度を測るアンケート調査の実施③当館の無料のメールマガジン登録制度「プラットフレンズ」の入会数④交付要望書の入場者数・入場率の目標値と実績値の比較⑤「プラットフレンズ」の今年度初購入率調査を行った。
結果は以下の通り。(1・2・3 は「荒れ野」東京公演を除く)

（１）来場者数及び入場率の目標・実績

| 入場者 | | | 入場率 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 目標 | 実績 | 達成率 | 目標 | 実績 | 達成率 |
| 2,700 | 2,962 | 109.7% | 72.1% | 83.5% | 11.4PUP |

（６）プラットフレンズ登録者数

| | |
|---|---|
| ～H30 年度入会数 | 28,222 |
| ～Ｒ１年度入会数 | 32,927 |

（２）来場者アンケートによる来場経験数

| | 初めて | 2-5 回 | 6 回以上 |
|---|---|---|---|
| H30 度 | 22% | 32% | 46% |
| Ｒ１年 | 15% | 45% | 40% |

（7）会員の初購入率：17.49%

（３）来場者アンケートによる居住地調査　※1 東三河地域以外　　※2 豊橋市以外

| 豊橋市 | 愛知県※1 | 東三河※2 | 三重・岐阜 | 静岡 | 関東 | 北日本 | 西日本 | 海外他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 47.3% | 28.5% | 10.3% | 3.0% | 8.7% | 0.4% | 0.8% | 0.6% | 0.4% |

（４）公演に付随したアーティストトークの実施の有無と実施本数、参加者数、アンケートによる参加者数の満足度調査

実施の有無：あり　実施本数：9 回　参加者数：2, 062 人

ファンファーレ・チョカリーア映画上映会、庭劇団ペニノプレトークでの内容の満足度に関するアンケート結果

とても満足：51%　満足：49%　その他：0%

（５）上演団体やアーティストへの事後アンケート調査

設問：①今後も当館で上演を希望するか？　はい100%　②スタッフの対応に関する満足度：良い83.4%　やや良い16.6%

(2)と（7）の結果より、初めての来場者割合は前年度減ではあるが、全会員のうち、約 17.5%が初めて R1 年度にチケットを購入したことから、新たな顧客開拓ができた。また(6)の結果から、R1 年度に 4,705 名の新規会員の獲得ができた。
(1)(2) の結果より、R1 年度は 2 回以上の来場経験が 85%。そして入場者・入場率ともに当初目標を上回る結果となり、新規顧客がリピーターに繋がっていると考えられる。
(3)の結果より、来場者の 50%以上が豊橋市外から訪れる結果となった。このことは、地域における経済効果並びに豊橋市の地域ブランディングに寄与できた。
「小曽根真ピアノデュオコンサート」以外の 5 事業で、関連企画を実施。(4)関連企画のアンケート結果から、非常に高い満足度が提供できたといえる。また、終演後のアフタートークについても、アンケートの自由筆記欄に「作品の内容がさらに深まった・トークが聞けて良かった」などの好意的な意見が多数寄せられた。
(5)のアンケート調査には 3 団体から回答があり、そのうちすべてが「今後も上演したい」と回答。またスタッフに対する満足度も「良い・やや良い」が 100%を占めた。今後も良好な関係を築きつつ、舞台芸術の発展を目指す。
以上の結果より、当初目標は達成したと考えている。

## （３）効率性

| 自己評価 |
| --- |
| アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。<br>アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。 |
| 【事業期間】<br>全ての事業について、計画通りの期間と開催日で実施した。<br>【事業費】<br>令和元年度事業計画の各数値と事業報告の各数値は以下の通りとなった。<br>①年間総事業費<br>計画　35,595,000 円　報告　32,599,431 円（目標対比△2,995,569 円）<br>②年間総収入<br>計画　14,655,000 円　報告　16,695,648 円（目標対比 2,040,648 円）<br>③年間収支差額（②－①）<br>計画　△20,940,000 円　報告　△15,903,783 円（目標対比　5,036,217 円）<br>総事業費は当初計画より約 2,995,569 円下回り、総収入については 2,040,648 円上回った。経費の削減と収入の増加により、収支差額は予算比で 5,036,217 円改善された。<br><br>年間総事業費について、交付申請書提出時からさらに経費の見直しを行い、結果約 3,000,000 円の支出減につながった。「CITY」「ファンファーレ・チョカリーア」「笑顔の砦」「古楽コンサート」「小曽根真ピアノデュオコンサート」の 4 事業が支出減となり、「荒れ野」東京公演のみが支出増となった。<br>収入については、各公演とも目標に向けた集客努力を行い、結果特に「CITY」「荒れ野」東京公演の 2 事業で収入増となった。他の公演は残念ながら目標まで達することができなかったが、各公演とも減収分が支出減額を上回るように執行し、健全な運用となるよう努めた。公演単体としても、公演事業全体としても、当初計画より良い結果に結びついた。<br><br>想定入場者数については、過去の実績や同種の事業の実績を参考に、公演ごとの入場者数の目標値を設定した。その分布としては 66.7%～75.8%の約 9%の幅に含まれる。一番目標値を低く設定した「CITY」に関しては、作・演出を務めた藤田貴大が主宰を務める「マームとジプシー」のこれまでの当館の上演実績は客席数 200 席のアートスペースでの上演であったため、初めて 771 席が定員上限となる主ホールでの 2 回公演ということで、まずは 1 階席の約 500 席×2 公演の 1,000 人を超えるという目標を設定した。結果、本作出演者の知名度や話題性に高い注目が集まり、予想をはるかに上回る入場者数となり、41%増となった。公演事業全体では入場者数の達成率 109.7%、入場率 11.4%増と目標を上回る実績を収めることができた。 |

## （４）創造性

| 自己評価 |
| --- |
| 地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。 |
| （１）劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在<br>平成 30 年 4 月から当館の芸術文化アドバイザーを務める桑原裕子（劇作家・演出家・俳優・劇団 KAKUTA 主宰）が作・演出を務め、当館が企画・制作した穂の国とよはし芸術劇場プロデュース「荒れ野」を 2 年ぶりに再演した。当館と東京公演（下北沢　ザ・スズナリ）の全国 2 か所で上演。桑原アドバイザーは、平成 21 年度（第 64 回）文化庁芸術祭芸術祭新人賞、平成 27 年第 18 回鶴屋南北戯曲賞の受賞歴がある。そして「荒れ野」初演時（平成 30 年 11 月～12 月）に、第 5 回カドカワ「悲劇喜劇」賞並びに第 70 回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞。また、桑原裕子が作・演出を務めた「ひとよ」は 2011 年に初演、2015 年にも再演され、2019 年には映画化（監督：白石和彌）されるなど、舞台芸術の世界にとどまらず幅の広い注目と評価を集めている。<br>運営責任者である芸術文化プロデューサーの矢作勝義は、世田谷パブリックシアターでの幅広い職務経験（1998 年 4 月-2012 年 3 月勤務）や、劇場・音楽堂等連絡協議会会長の職や全国公立文化施設協会コーディネーターなどで得た全国的な公共劇場とのネットワーク力を活かし、主催事業を取りまとめるだけでなく、貸館業務や広報営業、チケット販売等に関する劇場運営を網羅的に統括しながら、若手から中堅職員の育成に取り組んでいる。<br>舞台技術責任者であるテクニカル・マネージャーの高瀬洋は、劇団四季・音楽座で舞台監督として豊富な経験を積み、現在は当館の舞台技術に関する統括を行っている。また、東三河地域での高校演劇部を対象とした舞台技術の研修での講師や、20 代の若手技術スタッフへの専門知識の指導など、若手育成にも力を注いでいる。<br>（２）専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在<br>豊橋市出身で俳優の平田満は、初代芸術文化アドバイザーを務めたのち 2018 年 4 月よりアソシエイト・アーティストとして当館の事業に関わっている。近年は平田氏が主宰するアル☆カンパニーと当館にて「荒れ野」を共同企画し、出演したほか、ワークショップ事業等の教育普及事業に関するアドバイスなど、7 年間のアドバイザーとしての経験を活かして、地域や劇場の活動をバックアップしている。<br>（３）創造活動に関わる建築設備等<br>当館は、主ホール（771 席）とアートスペース（200 席）の大小 2 つの劇場空間の他、演劇や音楽、ダンスなどの練習や上演も可能な創造活動室が 5 室、バンド練習室が 3 室、地元の俳句や文芸等の文化団体のサークル活動や企業等の会議、小規模な講演が可能な研修室を 2 室有している。当館が企画・制作する「市民と創造する演劇」「高校生と創る演劇」では、約半年近くをかけて、オーディションからワークショップ、稽古、上演を行う。稽古は 181 ㎡の創造活動室Ａを中心に約 1 か月間かけて実施し、舞台出演経験が少ない市民や高校生らが、本番の舞台と同規模で稽古を行うことが可能である。また、稽古場にはプロのスタッフと市民スタッフが協力して仮セットを立て込むなどして本番に近い環境を整え、作品の質の向上を図っている。<br>（４）その他<br>火災や有事などに備え、「防災委員会」を発足。委員会には舞台技術部、事業制作部、総務本部のスタッフが参加し、いつ・どういった災害に対して、どのような対応をするのかという劇場独自の防災計画作りと、避難訓練等の実施に取り組んでいる。 |

| 自己評価 |
| --- |
| 地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。 |
| 劇場という建物としてのハードウェア機能と組織としてのソフトウェア機能を最大限に活用し、舞台芸術の鑑賞人口の裾野を拡げ、鑑賞機会を増やすことを目的に事業に取り組んだ。<br>（１）公演の企画内容、芸術性<br>穂の国とよはし芸術劇場プロデュース「荒れ野」（H29 年初演）を再演した。初演時と同キャスト・スタッフと共に、日本における小劇場の草分け的存在である下北沢ザ・スズナリと当館で上演。初演時には第 5 回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞や第 70 回読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞するなど高い評価と注目が集まった作品である。今回の再演での演技が評価され、出演の増子倭文江が第 27 回読売演劇賞・優秀女優賞を受賞した。このことは再演することでさらに作品が醸成し、より深みを持ったことが評価に繋がったと考える。<br>「荒れ野」の企画制作過程では、前・芸術文化アドバイザーの平田満の在職期間中に劇場運営の今後を見据えたアーティストの起用が提案され、劇場と平田氏の双方同意の上、桑原裕子に依頼することとなった。桑原氏は平田氏の後任として H30 年度より芸術文化アドバイザーに就任。現在は作品作りだけでなく当館における芸術的内容についても、スタッフと共に新たなチャレンジを試みている。当館が創造し発信する劇場としての機能を発揮するために、劇場スタッフと芸術家とが協働し推し進めている。<br>また、当館は開館以降、優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を東三河地域市民に提供することが期待されている。関東と関西の中間点にあるという立地条件を活かし、劇場間ネットワークを密にとることで様々な舞台芸術作品の招聘に取り組んでいる。また上演にあたっては、当館の舞台設備機能を有効に活用し、オリジナルに近い条件で作品を観客に届けることができていると考えている。このように、上質な作品を幅広くコンスタントに上演することで数多くの来場者を迎えることができた。<br>劇場のバリアフリー対応としては、施設のハード面におけるバリアフリー化は建設時に概ねクリアしている。スタッフの対応等ソフト面の向上については、当館では、視覚・聴覚・身体に障がいを持つ当事者を講師に招き、劇場に様々な障がいを持つ人が利用する場合の実践的な実習付きの講座や、地域の舞台手話通訳者の育成事業、聴覚障がい者のための字幕モニター対応検証にも取り組んでいる。この取り組みは継続して実施する予定をしており、職員一人一人が更なる経験を重ねることが重要だと考えている。多言語対応の取組については、音楽事業などを中心にホームページとチケット購入ページの英語対応を行っている。<br>（2）文化芸術情報の整理、蓄積、提供、発信<br>当館のホームページにて「運営方針」を掲載している。また劇場ホームページや SNS(Facebook、Twitter)、2 か月に 1 回発行する財団広報誌「プラットニュース」、YouTube チャンネル、豊橋市のコミュニティラジオ（エフエム豊橋）での毎週の番組出演、地元新聞社（中日新聞、東愛知新聞、東日新聞）等への情報提供などをコンスタントに行い、常に情報発信を心掛けている。<br>また、毎年実施している「高校生と創る演劇」「豊橋アーティスト・イン・レジデンス『ダンス・レジデンス』」「ワークショップファシリテーター養成講座」では、活動報告書を冊子として発行し、令和 2 年 5 月末からは劇場ホームページからも閲覧できるよう準備している。常に新しい情報を複数のチャンネルで発信するとともに、人材養成事業、普及啓発事業を中心に報告書として活動記録を蓄積している。<br>当館が連絡通路により直結する豊橋駅は、JR 新幹線、東海道本線、飯田線、名古屋鉄道等の多数の鉄道路線が伸び、加えて路面電車・路線バスの公共交通機関も集中し、「東三河の交通拠点」として位置づけられている。この立地条件を活かし、東三河エリアだけでなく、関東・関西・全国・海外といった広範囲からも集客実績を上げている。 |

## （５）持続性

| 自己評価 |
| --- |
| 事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。 |
| 雇用面では、初年度に嘱託職員として採用した職員を 2 年目から 4 年間の任期付き職員に転換、勤続 6 年目以降は無期雇用職員へ転換している。平成 31 年 4 月採用者 2 名は令和 2 年 4 月より任期付職員に転換し、任期付職員は事業制作部と舞台技術部で 7 名である。平成 31 年 4 月から事業制作部職員 1 名が無期雇用に転換となり、事業制作部・舞台技術部職員の無期雇用職員の数は 7 名となった。なお、60 歳以上の管理職 2 名は 1 年契約の嘱託職員である。また、平成 30 年度に出産に伴う産前・産後休業並びに育児休暇を取得し令和元年度に復職した者に続き、令和 2 年度に産前・産後休業並びに育児休暇を取得する予定の事業制作部職員が 1 名いる。<br>事業運営面では、公演アンケートで「職員の対応」についての評価と自由記述欄を設けている。結果は全てデータ化し、職員全員で目を通し来場者からの意見を反映した事業運営や体制づくりに取組む材料としている。<br>アンケート結果では、職員の対応についての 5 段階評価として、「とても満足」56.5%「満足」35.5%「どちらともいえない」6.5%「不満」1.2%「とても不満」0.3%であった。低評価の原因を減らし、満足度を高められるよう引き続き努力する。<br>事業制作部職員が全員出席の月例会議では、劇場運営全体における戦略や進捗状況の確認、課題や問題の洗い出しを行っている。改善策を協議し実行に努めることを定期的に行うことで、相互の理解を深めスキルを高めると共に、組織としての経験を蓄積している。<br>職員の人材育成面では、研修費用や、舞台公演の鑑賞費を補助している。約 40 公演の鑑賞と、文化庁、（一財）地域創造、全国公立文化施設協会、愛知県公文協等が主催するセミナーや研修に参加した。<br>また、今後の経営・事業運営に関わる人材育成の一環として、令和 2 年度から 2 年間の予定で、1 名の事業制作部職員を（一財）地域創造へ出向させている。<br>経営面では、特定費用準備資金（地域還元人材育成事業積立金）を用意し、将来の地域を担う事が期待できる人材育成事業を長期的・継続的に実施するための財源を確保している。さらには、個人・法人や地元の文化団体などが劇場の活動全体を金銭的にサポートする支援会員制度（財団維持会員）とともに、平成 31 年度からは新たに「特別賛助会員制度」を設置。初年度は団体 27 団体、個人 3 名から 920,000 円の支援を受けるなど、支援会員制度の充実とより多様な外部資金調達の手段を構築して、長期的・安定的な経営を目指している。<br>令和 2 年 2 月には、新国立劇場（新国立劇場運営財団）と、当財団が連絡・協力に関する協定を締結。公演のほか、人材の交流・育成などについて緊密な協力関係を築き、劇場事業の活性化に資するとともに、地域における実演芸術の普及向上、教育及び文化の振興に寄与し、わが国の芸術文化の振興に貢献することを目指す。<br>劇場間のネットワークを活用し、新国立劇場、東京芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場などの首都圏の公共劇場の制作公演を複数の地方公共劇場とともに上演するとともに、水戸芸術館 ACM 劇場、ロームシアター京都などの地方公共劇場間での連携事業の実施や、首都圏を拠点としている劇団と当館が協力して、春日井、茨木（大阪府）、福井、宮崎の地方公共劇場と連携したツアー公演も実施している。地元の愛知大学とは人材育成事業で連携を図るとともに、芸術文化プロデューサーが公共劇場に関する特別講座の講師を務めた。<br>建物や設備のメンテナンスを含めた 15 年契約の PFI 事業で建設された劇場であるため、指定管理者である財団と PFI 事業者である SPC が連携をはかりハードウェアとしての劇場施設を管理・運営している。月例会議にて、自治体、財団、SPC の担当者が施設の状況確認と年間メンテナンス計画に基づく執行状況の確認を行うとともに、日常的な現場確認を財団が行い、それを三者で共有することで、安定した施設の運営管理を行っている。 |